

昨日、3年生の「総合的な学習」の発表会を参観した。仲間と協力して、あるテーマを調べ、発表することは、大人になっても使う重要なスキルである。

おそらく、あらゆる仕事や業種で必ず求められる資質・能力であろう。その基礎を学んだわけである。大人から見れば、まだまだ足りないところ、稚拙なところもある。しかし、子供たちの感想にあったように「みんなと調べて楽しかった」「〇〇のことが分かってよかった」という体験を積み重ねていくことが大事だと思う。調べる精度を上げるためにインターネットを使うだろう…分かりやすい資料を作るためにパソコンを使うだろう…写真や動画はタブレットで…と、子供たちの未来が見えてくるようだ。

ただ、こういった ICT 活用能力が優れていることにも増して「協力」「コミュニケーション」といった人との関わりが重要であろう。例えば、研究者がどんなに素晴らしい研究をしても、それを形にする製造部門、販売する営業部門、宣伝する広報部門、コスト管理をする総務・経理部門と協力できなければ、ただの「発見」であり、人々の役には立たない。

今後、多くの「仕事」は、より専門化・細分化していくだろうが、いわゆる「専門バカ」になり、独りよがりに陥らないよう、「協力する楽しさ・大切さ」をあらゆる学校場面で身に付けさせたい。

時には、意見の異なる人や気の合わない人とも折り合いをつける「調整力」も必要である。これは、いかに優秀な AI（人工知能）でも困難なことであり、やはり「ヒト」が主役になる理由でもある。